論文執筆のための手引き書

１．何のために論文を書くのでしょうか

（１）すべての子どもたちの発達と幸福を支えていく保育学を構築するため

日本保育学会は、定款の第２条で定めているように、「子どもたちの健やかな発達と幸福をめざす」ことを目的として発展してきました。その基盤は、保育に関する実践や研究の成果を会員が相互に公表し研鑽することを通して、子どもたちの健やかな発達と幸福を支えていく学問としての保育学を構築していくことです。

そのために本学会の会員は、保育に関する様々な事柄や事象において、新たな見解やこれまでとは異なる解釈や知見が得られた時には、論文としてまとめてきました。また日々の保育実践において、子どもたちの生活や保育環境、保育に関係する人々の連携や支援の在り方などについて、新たな工夫やより良い方法などが示唆された場合にも、それを論文としてまとめてきました。こうしてまとめられた論文は「保育学研究」に投稿され審査されて、保育学の構築に貢献し得る論文として評価されると「保育学研究」誌に掲載され会員に公表されてきています。

日本保育学会ではこうした努力を長年積み重ねることにより、すべての子どもたちの発達と幸福を支える質の高い保育実践と、その基盤となる学問分野としての保育学の構築をめざしてきたといえます。

（２）論文としてまとめ成果を広く会員や保育関係者に共有してもらうため

しかし保育研究や保育実践を論文としてまとめるためには、自分の研究や実践を振り返りその成果を他の人にわかってもらえるように整理して示す必要があります。自分の成果のどこがこれまでの研究や実践の成果と異なっているのか、またどこが新たな発見や見解なのか、どこにオリジナリティがあるのかなどについて、その根拠を具体的に検証し、論理的に説明することが求められてきます。

そこで、自分の取り組んでいる研究や実践の見直しなどの成果がある程度まとまったならば発表し、研究大会等で会員や関係者と交流しながらその知見や成果を吟味し検討することが必要となります。こうした場には自分と同じ領域の研究や実践に関心のある会員や関係者が集まるので、研究方法や研究内容の交流や研鑽ができますし、結果の整理や考察の在り方についての議論なども行うことができます。こうして研究や実践のまとめと見直しを積み重ねていくことを通して、今取り組んでいる研究課題への取り組みの質をあげていくことがまずは求められてきます。

こうした積み重ねにより、研究目的が明確となり方法や内容についての検討が十分になされ、オリジナリティのある論文としてまとまったならば、「保育学研究」誌に投稿することができます。そして査読され保育学の構築に貢献しうる成果が得られている論文であると評価されたならば「保育学研究」誌に採択され公表されます。

会員や関係者がこうして掲載された論文を読むことによって、各論文の持つ意味と価値が広く共有されていき、それが保育において子どもの発達や幸福を支えることにもつながっていくのです。また、こうして保育の研究や実践に関する論文を蓄積していくことを通して、本学会としてはより質の高い保育学を再構築していくことができるのです。

２．保育学の論文とはどのような内容を含むのでしょうか

保育学が、保育に関係する研究者や実践者が子どもたちの発達や幸福を支えていくための学問である以上、それに資する内容を含む論文であれば保育学の論文としての意義と価値を持つことになります。

保育に関連して子どもたちの発達や幸福を支えていくには、園生活や遊び、保育環境や園文化、保育内容や園行事といった保育における日常性の在り方、またそこでの子どもたちの発達や関係性、保育者や保護者、地域の人々の関係性や連携の在り方、さらには、保育や子育て支援の歴史や制度の在り方なども含めて、保育を巡る様々な事柄や事象、人間関係や制度などが関連してきます。こうした保育に関係する多様な内容を含むことにより、保育学は成立っているといえます。

そのため論文の主な内容としては、子どもの遊びや生活に関すること、子どもの発達や障がいに関すること、保育の内容や方法に関すること、保育の環境や文化に関すること、子どもの福祉や子育て支援に関すること、子どもについての思想や文学に関すること、保育の歴史や制度に関すること、保育者としての成長や保育者養成に関すること、保護者の支援や地域との連携に関することなど、子どもと保育に関連するあらゆる領域が含まれているといえます。そのために保育学は、哲学・歴史学・文学・教育学・臨床相談学・心理学・統計学・小児医学・保健学・家政学・児童福祉学・社会学・看護学・建築学・環境学など、たくさんの専門領域とも近接しているのです。

その意味で保育学における論文は、そうした近接領域の研究方法や研究内容とも密接に関連しているともいえるのです。保育学の論文を書くときにも、その対象や内容によってこうした近接する専門領域との学問的な関連性を有すことになるのは、いうまでもありません。

３．保育学の論文としてはどのようなまとめ方があるのでしょうか

保育学の論文としてまとめていくには、その研究対象や研究内容と関連して様々なまとめ方があるといえます。これが典型的な保育学のまとめ方であるというものはありません。その方法を大まかに見ていくと、その内容によって、「文献研究」：保育の歴史的事実や保育の思想を支えた人物、保育実践の背景にある保育理論等について新たな事実や見方をまとめたもの。「実践研究」：遊びの意味づけや保育環境の見直し、保育支援や子育て支援、特別支援など保育における実践の在り方を検討したのもの。「事例研究」：障がいをのある子ども、仲間関係に行き詰っている子ども、保育実践に悩む若い保育者など特定の対象についての成長過程や変容過程を整理してまとめ、その意義や支援の在り方などを検討したもの。「観察研究」：保育現場や育児の現場で乳幼児や保育者、支援者の行動や相互作用などをそのままの状態で観察したり、被観察者の環境をある程度統制した条件で観察するなどしてまとめたもの。「調査研究」：保育者や保護者にインタビューをすることや質問紙を配布してその回答から課題について分析をするもの。「制度研究」：保育に関するある制度の仕組みを様々な視点から分析して、その制度の特徴や有効性、その制度を成立させていく要因などについて検討したもの、などがよくみられます。

その他にも、子どもの行動や表現について新しい視点からの解釈や新しい意味づけをしてまとめることや、子どもや保育者の行動を実験的方法から意味づけてまとめたもの。諸外国などにおける新しい保育や保育課題への取り組み、最近では子育て支援

の方法や内容などの試みを紹介する方法なども論文としてみられます。

保育学の論文を書いてまとめるとは、学問分野として特定の形式や書き方があり、それに沿って書いていくことではありません。子どもたちの発達や幸福を支えてきた様々な保育に関係する過去の研究や実践についての内容や方法を、新たな事実や根拠に基づいて見直し、新しい内容や方法を提案したり、これまでとは異なる保育の見方や枠組み、さらにはこれまで保育を支えてきた理論や説の修正などを提案することなのです。

それは単に自己の研究や実践の正当性を一方的に主張するとことは異なり、これまでの研究や実践における矛盾点や不合理性を検証し、自分の考えの妥当性を裏付ける根拠となるデータを示しながら､保育学に新たな見方や枠組みを提案することです。それが多くの会員に理解され納得してもらえるためには、新たな提案の妥当性を示す根拠に基づきながら、論理的で矛盾がないように説明することが求められます。

このように根拠となる明確なデータを提示して、論理的に新たな提案を展開する研究手法は、他の多くの学問分野でも同様に行われています。しかし文学や芸術などの学問分野では、新たな作品の魅力や新たな表現方法の有効性を過去のものと比較して論理的に説明する方法ではなく、そのもののもつ魅力を解説し、その領域にどのような影響や変化を及ぼし得るのかを紹介することでも、論として成り立つことがあります。そのために保育学の論文でも、こうした分野に近接した領域ではこのような研究手法に基づいた論文のまとめ方が可能であるといえます。

４．保育学の論文としてまとめるときに求められること

（１）論文を書くときの形式にはいろいろあります

すでに述べたように保育学における論文は、その内容によっても書き方が異なっており必ずしも特定の形式が決まっているわけではありません。しかしかといって各自が勝手に書いていいものでもありません。会員が読みやすく内容の納得のできるような形式にしていく必要性があります。そこでここでは､「研究目的」の設定、資料を検討するための「研究方法」、得られた「研究成果」の示し方、という観点から、論文の記述の要点について説明をしていきます。

一般的な論文としては「問題・目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「まとめ（結論）」、「引用文献」等の内容に区分されることが多く見られます。「問題」を「はじめに」とすることもありますが、その場合には、まとめ（結論）は「おわりに」と対応させます。また「結果と考察」というように一緒にまとめて書く場合もあります。このように論文の形式は柔軟性のあるものですが、研究目的や研究方法、得られた結果や成果は、誰にもわかるように具体的で明確に記載しておく必要があるといえます。

また論文の長さは短すぎても、また反対にあまりに長すぎても、読みにくく理解しにくいものとなります。そのために、あらかじめ論文の規定枚数を定めている学会がほとんどです。したがってその定められて枚数の範囲内でまとめるように書くことになります。「保育学研究」誌では 10 頁以内で書くことが決められています。

（２）論文の目的を明確に示すことが求められます

研究成果を論文としてまとめるときには、先行研究の内容のどこに納得ができなかったのか、保育実践のどこに疑問を抱いたのか、そしてその研究や実践を通してどの

ような成果が得られ何が明らかになったのか等、自分の抱いた問題意識をどのように検証したかの過程についてわかりやすく整理することが大事になります。

特に研究目的を設定する過程では、自らの提案したい思いだけを優先させるのでなく、同様のテーマの先行研究を集めて読み、自分が興味・関心を持ったことがこれまでどのように考えられ理解されてきたのか、現在における研究や実践の到達点を整理することが必要です。先行研究として書かれている論文をまとめることにより、書こうとしている論文がその研究領域全体の中にどのように位置づけられるのか、先行研究と自分の研究との違いはどこにあるのか、自分の研究や実践はどの点が新しいのか、どこを改善したかったのか等が、焦点化されていきます。先行研究の理論や考えをそのまま自分の考えとすることはできません。あくまでも、自分の研究のオリジナリティを明確にしていくことが大切です。

このように「問題や目的」には、研究をするに至った経緯、着想の根拠、さらにそれらに関わる先行研究の紹介や、それと関連づけた自分の論文の位置づけや意義などを書いていきます。

（３）研究で用いた方法を具体的に説明することが求められます

研究目的を検証するためには、検証に用いた研究方法が適切であるかが問われます。保育学の論文の具体的な研究目的や内容は幅広いので、そこで用いられる研究方法も多様となります。そのために、時には不適切な方法を用いていたり、専門的な領域と密接に関連していてその領域特有の難しい専門用語で書かれていて理解しにくい場合もあります。基本的には日本保育学会の会員が読んだときに、どのような方法でその成果を得たのかが具体的に理解できるように、わかりやすく書かれていることが求められています。

研究方法としては、具体的な資料の集め方、集めた資料の整理の仕方、それを目的に添いながら分析していく方法、また得られた成果の信頼性を検証した方法。さらには新たに提案された実践方法などが、どのような実態の実践から得られたのか等、具体的に理解できるように書かれていることが大切になってきます。また先行研究などで用いている方法を参考にしたときには、その旨を書いておく必要もあるでしょう。

実際の論文において研究方法として書かれる具体的な事柄としては、分析した歴史的一次史料の出典や原著名、対象にした資料や報告書の名称や発行年度等。実践した園やクラス及び保育者等の実態。観察対象者や調査対象者の年齢や経験、人数、性別などの特性。事例や観察方法などの具体的な手順、実施時期や観察期間、記録方法、観察に使用したツール等の特徴。インタビューや質問紙調査等における教示内容、使用機器。また、データの分析方法や読み取りなどの方法、分析に利用したソフトウェア名などがあります。こうした具体的な研究や実践の検証方法が論文に書かれていることにより、何を対象に、あるいは誰を対象にして、どのような方法で研究や実践の検証を進めたのかが、読む人にとって具体的にイメージでき、その検証方法の適切性が判断できるからです。またそうした研究内容に関心を持つ研究者や関係者がいた場合には、その方法を参考にすることができることにもなります。

できることならば、作成した論文はしばらく時間をおいてもう一度読み直してみるとよいしょう。そうすることにより、書いた内容や記述が適切でありわかりやすいかどうかを冷静に吟味することができます。また、他の人に読んでもらい不適切なとこ

ろ等を指摘してもらうことなども、よりよい論文を書くことにつながります。自分たちだけがわかるような難しい専門用語を使ってはいないか、会員にも広く理解されるような用語の適切な使用や適切な文書表現をしているかどうかなどを確認するためには、作成した後に多くの人に読んでもらうことが有効となります。

（４）得られた研究成果を目的と関連させながら整理して示すことが求められます

研究して得られた結果は、観察や調査などは「エピソード」や「観察結果」「調査結果」、事例や実践では「事例」「エピソード」、や「実践例」「実践のまとめ」というようなくくり方で、目的に添って得た観察や事例、実践などの結果や成果と、そこから導かれた妥当性のある考察内容などを整理して書いていきます。しかし文学や思想、哲学や教育学に関する内容を扱う論文では、このような手順や結果のまとめ方をしない場合もありますので、内容により成果の示し方は異なる場合があります。

「結果」の中では、図や表を使用することがよくあります。その場合、図表と本文との重複はできるだけ避けることが望ましいのですが、大事なことについては本文中にはっきりと書いておくことが大切です。また、図や表は多くのスペースを必要とするので、文字に換算して全図表がどの程度の文字数に当たるかを調べ、適度な量にする必要があります。

図や表のスタイルは一概には言えませんが、図表の具体的な書き方については、「６．論文を投稿するために」で詳しく説明してあります。保員学研究誌がカラーではなくモノクロである点を考慮する必要もあります。また本分中に図や表を挿入する位置を指定することも必要となります。図や表には、図と表別に連番を振って図のタイトルは図のすぐ下に、表のタイトルは表のすぐ上に書きます。図の背景は白に統一し、縦横軸に目盛線を入れます。

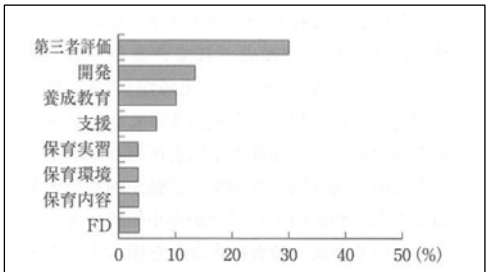

図４　保育の質と関連する領域の研究の割合

保育学研究第 48 巻第 1 号 84 頁掲載

表１　障害児の保育に関する研究内容の分類

内容	発表数
個別の指導及び指導計画	9
保育者の障害理解と意識	8
統合保育，インクルージョン	7
軽度発達障害の診断と事例	5
子どもの育ち合いと共生	4
家族との連携と家族支援	4
気になる子	3
巡回相談の方法と内容	3
障害児保育の歴史	1
合計	44

保育学研究第 47 巻第 1 号 82 頁掲載

「考察」には、目的に対応して、得られた根拠によって何がどこまで明らかになり、それがどのような意味を持つのか、今後の課題は何かなど、先行研究や関連の研究を引用しながら記述します。根拠のある結果とは関係のない事柄まで言い及ぶことは避けなければならないでしょう。つい自分の主張したいことを書きたくて、根拠を無視して考察してしまうことはよくありますが、自分に都合の良い解釈をしないように気をつけます。得られた根拠に基づいて論理的に解釈や考察を展開することが大切です。

「まとめ（結論）」には、その研究で得られた内容を簡潔に示します。その意味では、結果や考察と同じことを繰り返して書く必要はありません。

最後に、研究の目的や成果が保育学の趣旨から見て、はたして保育学の論文として公表すべきものなのか、もしかしたら独りよがりの内容になってはいないか、さらには別の専門分野の論文とした方が適切なのではないかということを再検討することが必要な場合もあるでしょう。

（５）論文にまとめ投稿する場合には研究論理に配慮することが求められてきます

研究や実践を論文としてまとめ投稿するときには、いくつかの倫理的な問題に配慮することが必要となります。

①インフォームドコンセントに注意する

研究対象となる人たちに対して、その人たちから得られたデータを論文として発表することについての十分な情報提供と、了解（インフォームドコンセント）を得ておくことが必要になります。またそうした了解について、できれば書面（承諾書）で確認できるようにしておきます。また論文の中で対象者からこうした了解を得ていることを記載することも必要となります。

②差別的な表現・不適切な表現に注意する

差別的な表現とは、性別や人種・文化等のより人権を侵害するような表現をすることです。また不適切な表現とは、誤解されるような表現をすることや関係する人や団体などに対して不利益を与えかねない表現をすることです。これらも問題となりますので、注意する必要があります。

③論文を分割して投稿することや、多重投稿することは許されません。

論文の分割とは、１つの論文をいくつかに分けて投稿することです。論文の分量が多いからといって、それを何回かに分けて投稿することはできません。また多重投稿とは、内容が同一あるいはほとんど同一とみなされる論文を複数の学術雑誌に投稿すること、あるいは既に公刊されている論文を他の学術雑誌に投稿することも許されません。

④個人情報や秘密を保護することに注意する

調査研究や観察研究、事例研究などにおいては、対象者や対象団体、対象園等の様々な情報を知り得る立場にあります。しかしこうした情報の中には、子どもや家庭、保育者や関係者に関する個人情報もありますし、園や団体が外部に対して秘密にしている情報もあります。こうした情報を論文の中で漏らすことは、当事者に不利益を及ぼすだけでなく、その対象者の信頼を失うことにもつながります。したがって、研究や実践の対象者に関係する個人情報や秘密の保持には十分な注意を払うことが必要です。

ここでは論文を書くときと投稿するときに限定してその研究倫理の概要を説明しておきましたが、研究倫理全体については日本保育学会が編集している「保育学研究倫理ガイドブック」（フレーベル館発行）を熟読してください。

５．引用文献の書き方

日本保育学会では論文を書くときに、本文で言及した文献のみを引用文献として記載します。すでに一般化されている内容を参考にした文献については、特に参考文献

としては記載をしません。すなわち論文を書くために、ある特定の著者のオリジナルな考え方が記載されている章や節などの内容に言及したり、ある著者の具体的な文書をそのまま引用するような場合、またそこで示された方法や得られたデーターをそのまま引用したり一部加工して用いる場合などには、引用文献として記載していくことになります。

このように論文中に他の文献からその内容や方法、結果やデーター等を引用した場合には、引用文献（雑誌・書籍・論文等）として記載します。その記載の仕方は文献の種類によって決められていますので、以下に文献別にその記載様式を示しておきますので、それらを参照して書いてください。なお引用文献を記載するに際に、以下の２点に留意することが必要となります。

①複数著者の場合の表示は、日本語文献では・を、外国語文献では A、B、C&D というように最後に&を使用します。

②外国語文献では、雑誌名および書名は斜体（イタリック体）で表記します。著者名はファミリーネーム、ファーストミドルネーム（イニシャルのみ）．で表記します。

（１）注の書き方

論文の文中で用いる専門用語などを詳しく説明するような場合には注をつけることがあります。注がある場合は、文中に[注1)][注2)]のように通し番号をつけ、引用文献の項目の前に注の項目を作り、それぞれの注については番号に従って列挙して説明を加えるようにします。保育学研究に投稿する論文において注を書くときには、その引用する文献によって、次のようなことを配慮することが求められています。

（２）引用文献の示し方

論文中に言及した論文は文書の最後に[1)][2)]のように記号をつけて引用を明示します。そして、論文の末尾に、引用文献として（1）…、(2）…というように、引用した順に並べて記載します。また同じ文献を複数回引用した場合は初出の時に著者名、年号、表題、出典（雑誌名、出版社名)、巻号、頁を書き、2 回目以降の同じ文献を引用の場合は「前掲」、続けて同じ文献を引用する場合は「同上」と記載し、引用頁が異なる場合はその頁を書きます。実際には、引用した文章それぞれの箇所で引用した文（文章）を「　」でくくり、その後に引用した頁を記載します。

（３）　専門雑誌からの引用

著者名、出版年、表題、雑誌名、巻（必要な場合は号数)、引用頁（00－00）という順で記載します。なお、紀要の大学の所在地は記載しません。

【例１】谷村宏子 （2010）　自閉症児にみられる音楽行動の変容－乳幼児音楽行動の発達プロセススケールの作成を通して－．保育学研究．48．10－22.

【例２】Stefenson，H．W.，Chen，C．& Uttal，D．H．（1990）．Beliefs and Achievement：A Study of Black，White，and Hispanic Children．*Child Development*，61，508-523.

（４）学会論文（要旨）集からの引用

学会論文（要旨）集に発表された論文を引用する場合には、著者名、発行年、 論文タイトル、学会論文（要旨）集名、引用頁の順で記載します。また学会論文（要旨）

集の開催大学名は省きます。

【例３】○△◇（2010） 保育者の……の意味と課題．日本保育学会第 56 回大会発表論文集．555

（５）書籍の引用

書籍の特定の頁を引用した時には、本文の引用箇所に引用文献番号を記入し、引用文献欄にも記載します。書き方は著者名、出版年、 書名、出版社、引用頁（00-00）の順で記載します。

①日本語の書籍

その書籍の著者名、出版年、書名、出版社、引用頁の順に記載します。

【例４】小川博久 （2010）遊び保育論．○○書房．15-16

②外国語文献

外国文献を引用する場合には、書籍の著者名、出版年、書名、出版社の順で記載します。

【例５】 Sroufe，L．A．（1996）．*Emotional development：The organization of emotional life in the early years*． Cambridge University Press.

【例６】Zimmerman, B. J.（2002）. Theories of self-regulated learning and academic achievement. In B．J．Zimmerman，& D．H．Schunk （Eds.），*Self-regulated learning and academic achievement：Theoretical perspectives*（2nd ed.）（1-37）．Mahwah，Lawrence Erlbaum Associates.

（６）分担執筆の引用

書籍の中で、分担執筆された部分を引用するときには、著者名、出版年、引用部表題、編者名（編）、書名、出版社、引用頁（00-00）の順で記載します。

【例７】松澤正子（1999）．「注意」の発達．正高信男（編）．赤ちゃんの認識世界．△△書院．115-156

（７）翻訳書の引用

翻訳書を引用するときには、原著者名、出版年、原書名、出版社の順で記載します。なお、原書名は斜体（イタリック体）で表記します。また原著者名はファミリーネーム．ファースト/ミドルネーム（イニシャルのみ）で表記します。複数著者の表示は&を使用します。

【例８】Garvey，C．（1980）「ごっこの構造」（高橋たまき，訳）．サイエンス社．（Garvey，C．（1977）．*Play*．Cambridge Mass：Harvard University Press.）

（８）政府刊行物等の引用

政府刊行物等を引用するときには、編集機関名、出版年、書名、出版社の順で記載します。

【例９】内閣府（編）（2002） 国民生活白書平成 13 年　家族の暮らしと構造改革．□△○出版

（９）修士論文・博士論文の引用

修士論文や博士論文を引用するときには、著者名（発行年）、論文タイトル、修士論文　（博士論文）、○○大学、大学所在地の順で記載します。

【例 10】○△◇　（2010）　日本語の・・・・の意味と課題．博士論文．○○大学．東京

（10）電子媒体からの引用

電子ジャーナル・ニュースレター記事の場合：著者名、発表年、論文または記事のタイトル、ジャーナルまたはニュースレター名、巻号　（なければ略）、URL、情報取得年月日の順で記載します。組織・個人の Web サイト、Web ページ上の記事の場合：著者名または組織名（不明の場合には、記事タイトルから開始）、発表年、記事タイトル、URL、情報取得年月日の順で記載します。

【例 11】小川正行（2008）インターネットを通じた保育者臨床相談の試み　保育ケアニュース．3（2）．http://www．educare．net/subs/newslet7．html/（情報取得 2008/01/30）

【例 12】大妻女子大学日本保育学会第 58 回大会準備委員会緊急シンポジウム準備委員会（2007）　保育学会の社会的責任を負う．http://members．aol．com/hoikugakkai/（情報取得 2008/1/30）

６．論文を投稿するために

本学会の会員が保育の研究や実践において、新たな知見や解釈、新たな実践や支援の在り方などが得られた場合には、それを論文としてまとめ「保育学研究」に投稿することができます。投稿された論文は審査され、保育学の構築に貢献し得る論文として評価されると「保育学研究」誌に掲載され会員に公表されます。

では投稿するには、論文としてどのような書き方の様式が求められるのかを、次に示しておきます。

１）用紙　A4 判

２）書式およびフォント　A4 判用紙縦置き、横書きとし、フォントは 10．5 を使用する

３）論文の体裁

・欧文（アルファベット）、数字等については半角文字を使用する

表紙（１頁目）

①特集論文・自由論文の別

②題目（和文）

③題目（英文）

④専門領域

① 特集論文・自由論文の別を明記する。

② 論文題目（和文）を明記する。

③ 論文題目（英文）を明記する。

④ 専門領域

氏名・所属・専門領域（2 頁目）

①氏名（和文・英文） ②所属	① 氏名（和文・英文）を明記する。 ※連名者も含む ② 所属を明記する。 ※連名者も含む

要旨（3 頁目）

①英文要旨 ②英語キーワード ③和文要旨 ④日本語キーワード	①英文要旨(ｱﾌﾞｽﾄﾗｸﾄ)を 130 語以内とする。 ②５語以内の英語のキーワード ③和文要旨（英文要旨に対応するもの） ④日本語キーワード （英語のキーワードに対応するもの）

本文（４頁目以降）

・２段組み（21 字×40 行）１篇 10 頁以内とする。（小見出し、図表、写真、注、引用文献を含む。参考文献は記載しない）

・頁番号を記入すること。

・図表、写真等は「４、図表・写真類について」を参照のこと。

その他（最終頁）

・謝辞、付記等は本文とは別にして書くこと。

４）図表・写真等

・図表、写真等は、本文中に直接入力するか、あるいは、本文中に「(表１　挿入)」などと記入し、図表、写真等の挿入希望箇所を明示し、データ入力または黒インクで書いたものを添付すること。

・図表、写真等の大きさは、タイトル等を含め、横幅は１頁の半幅（80mm：片段）または、全幅（170mm：段抜き）、縦全幅は 240mm に収まるように印字すること。ただし、刷り上がりはＢ５判となるので、85％程度に縮小されることを想定し、文字の大きさ等は注意すること。

・本文は、図表・写真類等含めて 10 頁以内となるので、所定の枚数を超えないよう注意すること。

本手引書は、編集常任委員会で検討し、常に最新のものを日本保育学会ホームページに記載しています。論文記述の際は、最新の手引書をホームページでご確認ください。